



新しい時代の問題、マーケティングを使って解決します！

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター

Ver.4 第95号

「一日一生」を読みました！



5月がスタートしました。しかも月曜日。何かを始めるにはキリが良いですね。さて、今回ご紹介するのは「一日一生 (朝日新聞出版、¥770、酒井雄哉著)」です。先月、神戸のインキュベーション施設の仕事でお世話になった方が、3月31日にお亡くなりになりました。4月3日の夕方、お通夜に行ってきましたが、53歳という若さでの訃報に接し、会場でお顔を拝見するまで信じられませんでした。

何とも言えない寂寥感があり、人生ははかないものだと考えているとき、Amazonで本書を見つけ、そのまま衝動買いしたのです。ぽっかり空いた心の「すき間」を埋めてほしいと思ったのかもしれませんが。

著者は、比叡山室谷不動堂長寿院の住職で、天台宗大阿闍梨です。7年かけて約4万キロを歩く荒行「千日回峰行」を二回も達成しています。つまり、とても偉いお坊さんなのです。世間は「すごい！」と評価しているのですが、著者は自分を「すごい！」とは考えていません。第1章の中で「人からすごいと思われなくたっていいんだよ」という記述から理解できます。著者の若い頃は落ちこぼれていたこと、挫折や失敗をたくさん経験していること、だから自分は「すごくなく、普通である」ことを親しみのある言葉で語ってくれます。

「自分は何のために生まれてきたのか、なにすべきか問い続ける (P78)」というところを読むと、著者とその先生のエピソードが出てきます。著者は般若心経を写経していたのですが、ズルしたことを先生に見破られます。全部書き直ししてから翌日に提出すると、先生から一枚の紙を渡されて「宿題として、この意味を考えなさい」を言われます。その後、考え続け、その答えは…。この段落の太字のところですね。

上記と連動して「その答えを一生考え続けなさい (P82)」では、著者が無動寺谷宝珠院の住職を拝命した際のエピソードが登場します。その辞令を天台座主に渡したのが、著者の先生。著者は大昔に貰った宿題の答えを出していなかったのが、住職になる前に先生に答えを言いにいったそうです。先生に「合っていますか？」と尋ねると良いとも悪いとも言わずに立ち去ります。それから時間が経過して、先生と二人きりになったときに聞いてみると、先生は「そんなことはどうでもいい」と言ったそうです。それから著者は、次のように考えたそうです。「自分なりに臍に落ちると、人はついそこで考えるのをやめにしちゃう。でも、答えが分からないといつまでも考えるだろう。肝心なのは答えを得ることじゃなく、考え続けることなんだな。」

生まれた時から人は、死に向かって歩んでいます。20代・30代の頃は、そんなことを考えることがなく、この状況や若さが永遠に続くものと錯覚していました。友人の死に直面し、自分自身が還暦を超えた今、本書が伝えようとしている「一日一生」という考えが心に沁みてきます。月並みですが今日を全力で生きてから明日を迎え、また全力で生きよう。その繰り返しが大事であることを教えられました。感謝です！

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター編集部

発行人 奥村政治

〒571-0047 大阪府門真市栄町6番9号 門真プラザ610号

発行日 2023年5月1日

TEL06-6991-9627

Email: info@1project-support.com

https://1project-support.com

Copyright 2023 オクムラ経営コンサルティングオフィス all rights reserved